

安全保障法制の今国会での成立に反対します

安倍内閣は今国会に安全保障法制を上程し、この夏までに成立させようとしています。

「平和安全法制」という名の法案の実際の内容は、「平和」とは反対に、海外での武力行使に道を開く「戦争法案」という性格が強いものと言わざるを得ません。

すなわち、この法案のねらいは、いつでも、どこでも、あらゆる軍事行動に、アメリカ軍に追従して自衛隊を参戦させることにあるといえます。このことは、憲法9条を根底から破壊し、日本を、戦後70年にわたって築いてきた平和国家から「戦争する国」に大きく転換しようとするものにほかなりません。

最近のどのような世論調査も、この法案に対しては、反対意見が多数となっています。今国会において成立させることに對しても、多数が反対です。また、「アメリカの戦争に巻き込まれるのではないか」ということについても多数の国民が懸念を示しています。さらに注目されることは、与野党支持の別を問わず、圧倒的多数の国民が、同法案の「説明不足」を感じていることです。このことは、安倍政権に対し、徹底かつ慎重な国会での審議と国民に対する十分な説明責任を果たすことを国民が強く求めていることを意味します。

この間、国会の論戦に呼応して、連日各地で、政党支持や思想信条を超えた幅広い団体や個人によって、この法案に反対する集会やデモが行われ、また、国会周辺でも、集会・デモや座り込みなど多様な反対運動が展開されています。

わたしたち茨城大学に關係する有志は、思想信条の違いを超え、世界に誇る憲法9条を中心とする我が国の平和国家ブランドを壊すことにつながる今回の安全保障法案の今国会での成立に反対します。様々な国際間の紛争は、平和的な外交と話し合いに基づき解決されるべきであると考えます。

大学での学問研究や教育の健全な遂行は、平和が維持され、自由闊達な討論と発言が保障されてこそ可能です。また、私たちは、私たちの子供や孫と同様に学生や卒業生を戦場に送ることを拒否します。

以上述べたようなことから、私たちは、安全保障法制の今国会での成立に反対するものです。

2015年6月

安全保障法制に反対する茨城大学有志の会呼びかけ人（50音順）

青木研二（茨城大学名誉教授） 朝野洋一（同） 飯塚和之（同） 大谷尚子（同）
軽部利男（民間教育研究所元研究員） 菅野正吉（茨城大学名誉教授） 金原 實（同）
齋藤典生（同） 酒井はるみ（同） 塩見正衛（同） 須田美智子（茨城大学図書館元職員）
曾我日出夫（茨城大学名誉教授） 高村義親（同） 帯刀 治（同） 田中重博（同）
田村武夫（同） 徳江和雄（同） 野田二次男（同） 堀 良通（同） 吉田紘子（同）
渡邊 堯（同）